

主催校からのご挨拶

本大会の実行委員長を務めておられた太田正孝先生が9月28日にご逝去されました。この大会についても大変多くのことを準備されておられたので、とても残念でなりません。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

太田先生の急逝のため、私が実行委員長を務めることとなりました。太田先生と比べるとまったくの力不足ですが、実行委員一同一致団結して本大会の成功に向けて専心努力いたす所存です。何卒よろしく願い申し上げます。

以下の挨拶文も太田先生が生前最後に書かれた文章の一つとなってしまいました。本学会員の方に見ていただきたく、そのまま掲載させていただきます。

国際ビジネス研究学会（JAIBS）の第25回全国大会を11月10日（土）・11日（日）の両日、早稲田大学（東京都新宿区）において「クロスボーダーM&A／アライアンス－国際ビジネス研究のフロンティア」を統一論題に掲げて開催いたします。1994年7月に奇しくも早稲田大学においてJAIBSが創設されてから四半世紀が経過し、グローバル環境も大きく変化しました。その意味では、JAIBSが国際ビジネス研究の新たなフロンティアを切り開く全国大会でもあります。

ご承知のとおりM&Aは長年、戦略的マネジメントの実務・理論の両面における重要問題と位置付けられながらも、その大半は失敗するとされてきました。とりわけクロスボーダーM&Aに関しては、M&A先進国である欧米においても成功例は非常に少ないです。しかし21世紀のVUCA (Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity) 時代の出現とともに、M&Aとアライアンスをセットで捉えるべきグローバルビジネス環境が増大してきました。とりわけクロスボーダー・アライアンスの解明は、M&Aの成功を決定づけるPMI(Post Merger Integration)にも大きなインパクトを与えるとの認識が高まっています。

加えて、本統一論題は日本企業の競争力強化に強い関心をもつ、日本の研究者ならびに実務家にとっても大きな意味をもちます。日本企業は歴史的に国境と文化を超えたM&Aを最も苦手としており、とりわけ国境を超えたアライアンスは苦手中の苦手だったからです。逆説的に言えば、クロスボーダー・アライアンスに長けることは、結果的にPMIさらに言えば、より根本的な課題であるクロスボーダー・インテグレーションの成功にも寄与しうる点において、日本企業のグローバル競争優位獲得にとって効果的なアプローチとなりえます。

こうした問題意識に立ち、初日は「クロスボーダーM&A／アライアンス」に関する造詣が深い内外の研究者・実務家の諸報告とパネルディスカッション、2日目は統一論題に限定されない多様な自由論題報告ならびに国際交流フォーラムを予定しております。国際ビジネス研究の特性を活かし、初日には遠隔方式による海外研究者の登壇も予定しておりますし、2日目の自由論題報告は史上最高の70本に達するなど話題も満載です。秋の深まる早稲田の杜において、創設四半世紀の節目の全国大会を存分にご堪能頂けるよう準備委員会一同工夫を凝らしております。皆さま万障お繰り合わせのうえ、奮ってご参加頂けますようお願い申し上げます。

実行委員長 坂野友昭（早稲田大学）

大会委員長 長谷川信次（早稲田大学）

実行委員 池上重輔（早稲田大学）、山野井順一（早稲田大学）